

## 中高生ボランティアと得意なことをイベントに！～ブーケ屋さん～

### 取組の背景・目的

#### <背景>

児童館をサードプレイスとして小学生の時から利用している高校生が、自分の得意分野である「花」を活かしたボランティア活動に興味を抱いており、他の利用者にとっても児童館が居心地良く楽しい場所になるようなイベントを実施したいと提案があった。

児童館を子どもたち自身が主体的に利用することで、子どもたちにとって児童館が自己実現の場となり、子ども達の居場所となることにつながるほか、子ども達の自己形成の機会になるとも考え、職員もサポートしながらイベントを実施することとした。

#### <目的>

- ・中高生が主体となりイベントを企画することで、自分の好きなことや得意なことで誰かを喜ばせる経験や様々な人と関わる経験、自分の自信を深める機会にする。
- ・中高生の居場所づくりとボランティア活動を結び付け、中高生の居場所づくりの展開と児童館がもつ社会参加を促進する拠点としての役割を果たす。
- ・このイベントをきっかけとして花を好きになったり、華道を習い始めたりするなど、子ども達の興味や好奇心の幅を広げ、普段少し手の届きづらい花を身近に感じてもらう。
- ・イベントを通じて、児童館を家庭とも学校とも違う居場所として、また自分がやりたいことを実現できる場として子ども達に浸透させる。

### 取組の概要

- 日時：令和4年7月24日 午後3時～午後4時
- 場所：けやき児童館 集会室
- 人員体制：高校生ボランティア8名 職員2名
- 事前準備
  - ・室内のレイアウトや飾りつけは、職員と相談しながら企画者の高校生が3回来館して行った。
  - ・ブーケに使う花は、全て事前に高校生が作成した生花リース等を販売し、その費用で準備した。
  - ・必要に応じて児童館のハサミやマジックを貸し出し、お花紙やリボン等も使用してもらった。
  - ・事前申し込みは行わず、当日の来館者から参加を募った。
- 内容：参加者に好きな花を選んでもらい、お花紙とリボンで工夫しながら自分だけのオリジナルブーケを作る。

## 工夫点・留意点

- ・中高生ボランティアによる初めての企画であるため、職員は企画者と参加者の架け橋となるようサポートを行った。
- ・当初の予定はブーケを一緒に作るのみだったが、選んだ花の花言葉をカードにすることを職員から提案した。花言葉のカードが企画者と参加者のコミュニケーションツールとなり、雰囲気は更に盛り上がった。

## 取組の効果

- ・企画者である高校生は、イベントをやり遂げた達成感を感じ、自己有用感を高めた様子であった。
- ・普段は花にあまり興味がなさそうな子どもも、高校生に誘われて楽しそうにブーケを作る姿が見られ、企画した高校生にとっても、参加した子どもたちにとっても、異年齢と関わるコミュニケーションの場となった。
- ・小学生から幼児親子まで幅広い利用者がブーケづくりというイベントに楽しんで参加し、イベントが児童館を広く周知する機会になった。
- ・児童館を子どもたちが自己実現の場として利用する貴重な機会となった。



## 課題・今後の展開

- ・お花紙やリボンの種類、包み方を工夫するなど子ども達の創意工夫を活かして、一輪のブーケでも十分に楽しめる企画になると考えられる。より多くの子どもが参加でき、継続的に開催できる活動に成長させていきたい。
- ・子ども達を取り巻く環境の変化や課題解決のために地域コミュニティの核として、周囲の子を巻き込んで、子どもたちが積極的に地域社会の活動に参加したいと思うイベントを企画していきたい。
- ・今回のように子どもたち自身がイベントを企画・実施することで、児童館が子どもたちの自己実現の場となり、貴重な経験を提供することができる場となると考えられる。今後も児童館の利用者が主体となる企画を実施していけるよう、子どもたちの意見を受け入れ、子どもたちのやりたいことを実現するためにどうすればよいのか一緒に考えていきたい。